

# EWS101

## ワイヤレスLANコントローラー

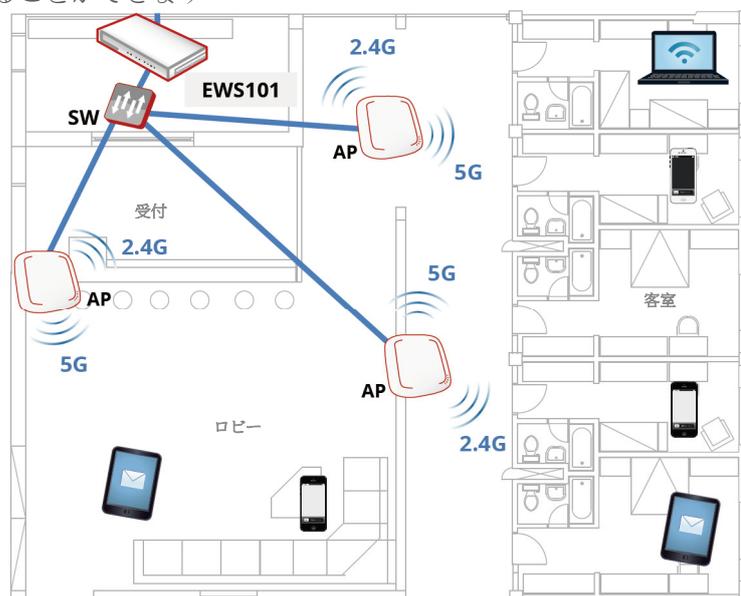


### 製品紹介

EWS101は、中小企業、小売業者/チェーン店、複数の拠点にまたがる組織でエンタープライズグレードの機能性を実現する、エントリーレベルのLANコントローラーです。アクセスポイント管理、ユーザー認証、ポリシー割り当て、トラフィック誘導、ファイアウォール機能すべてを1台のボックスに収めたEWS101を使用すれば、IT予算の限られた小規模な企業であっても、大企業と同程度のネットワークセキュリティと管理機能を得ることができます。EWS101は非常に手頃な価格に設定されており、実装も簡単で、手軽に管理できるため、総合的なWi-Fiソリューションを求める中小企業にとって理想的です。

EWS101はECW/ECWOシリーズのワイヤレスアクセスポイントを50台まで管理できます。これらのアクセスポイントは、ワイヤレス技術に明るくないユーザーを含め、誰でも簡単に実装および設定することができます。例えば、自動アクセスポイント検出機能を使用すれば、ネットワーク管理者は各アクセスポイントを個別に追加して設定する手間が省けます。アクセスポイントや接続済みのWi-Fiデバイスを集中的に監視して管理でき、トラブルシューティングやメンテナンス時には豊富なログやレポート機能を利用できます。

スマートフォンやタブレットなど、Wi-Fi対応の携帯デバイスが日常生活に浸透し続ける中、企業やネットワークオペレーターの内々も、巨大なジレンマに直面しています。個人デバイスの持ち込み（BYOD）を可能にし、Wi-Fiユーザーを管理し、ミッションクリティカルなアプリケーションのネットワークサービス品質を維持する - これらを同時に実現しなければなりません。EWS101はこうした要件に合わせて専用設計されています。最も予算が限られた条件でも満たせるよう総所有コストを抑えており、企業組織はワイヤレスLANインフラへの投資効果がかつてないほどに高めることができます。



## 特徴

### セキュリティ

企業向けワイヤレスネットワークでは、セキュリティがしばしば最優先されます。権限を得ていないユーザーからのネットワークアクセスを防ぐ最も基本的な機能から、不審なアクセスポイントを検出したりネットワークを強制的に隔離する用途まで、Edgecoreコントローラーは企業組織のネットワークで悪意のある活動を防ぐ様々な機能を用意しています。

柔軟に実装できるよう、Edgecoreコントローラーは業界標準の802.1Xとウェブベースのキャプティブポータル両方でユーザー認証を行えるようになっています。ウォールドガーデン機能を内蔵したキャプティブポータルは自由にカスタマイズでき、ホテル、学校、その他の公共施設のニーズに合わせて構成できます。アカウントを持たない未登録のユーザーは、メールアドレスを入力するかソーシャルメディアのアカウントを使用したり、Paypalでデータプランを購入すれば、ゲストとしてアクセスすることができます。

多彩なアカウント生成方法を備えるEdgecoreコントローラーはユーザーを認識してその活動を追跡でき、公共Wi-Fiであってもネットワークをセキュアに保護します。

EdgecoreコントローラーはVPNを通じたりリモートアクセスにも対応しており、出張中のビジネスマンにも非常に便利です。同時に、サイト間でVPNを確立して、本社と子会社の間でセキュアな接続を確保します。

ユーザーセキュリティ	
認証タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>802.1X</li> <li>UAM (ブラウザベース)</li> <li>IPまたはMACベース</li> </ul>
認証サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカル</li> <li>オンデマンド</li> <li>ゲスト</li> <li>RADIUS</li> <li>LDAP</li> <li>NTドメイン</li> <li>SIP</li> <li>POP3</li> </ul>
カスタマイズ可能なキャプティブポータル	<ul style="list-style-type: none"> <li>あり</li> </ul>
ワイルドカードをサポートするカスタマイズ可能なウォールドガーデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>あり</li> </ul>
ユーザーをブラックリストに追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>あり</li> </ul>
アカウント生成	

オンデマンドアカウント	<ul style="list-style-type: none"> <li>SMS登録</li> <li>Paypalを利用した購入</li> <li>ホテルのPMSを統合</li> <li>複数の課金プランから選択</li> <li>アカウントチケットのプリンター</li> </ul>
柔軟なオンデマンドのアカウント生成	<ul style="list-style-type: none"> <li>課金プランを設定可能</li> <li>アカウント認証</li> <li>アクセスコード</li> <li>スマートログイン</li> </ul>
Wi-Fiのゲストアカウント	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間とデータ量に応じた制限</li> <li>再起動時間を調整可能</li> <li>メールを利用した登録とアクティベーション</li> </ul>
ソーシャルメディアを使用したログイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>あり</li> </ul>
ネットワークセキュリティ	
VPN	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモート</li> <li>サイト間</li> </ul>
トンネル化プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> <li>IPSec</li> <li>IKEv2</li> </ul>
ネットワークアイソレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>イントラ-VLANまたはポート</li> <li>イントラ-VLANまたはポート</li> </ul>
不審なアクセスポイント検出	<ul style="list-style-type: none"> <li>あり</li> </ul>
認証	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルートCAを内蔵</li> </ul>

### モビリティ

スマートフォンやタブレットの時代を迎えて久しいですが、インターネットが実際に使われる方法と、企業組織が提供するインターネット接続の方式との間に乖離が生じています。旧式の有線接続を持たないデバイスをサポートするべく、ワイヤレスネットワークは高級品から必需品へ変わりました。さらに、ユーザーのふるまいも急速に変化しており、新機能を追加する必要に迫られています。

Edgecoreコントローラーは、企業向けWi-Fiをより簡単に使用し管理できるようにするための多彩なモビリティ機能をサポートします。例えば高速ローミングに対応しており、モバイルデバイスのユーザーは接続中断を気にせずに出出できます。1人のユーザーが複数の携帯デバイスを使用することも珍しくありません。Edgecoreコントローラーを使用すれば、デバイスすべてを同じユーザー名とパスワードでWi-Fiにログインできます。最後に、モバイルに最適化されたキャプティブポータルやチケットに印刷されたQRコードを利用した自動ログインはどちらも、モバイルデバイスを使用してオンラインへ簡単に接続できる便利な機能です。

### デバイスのモビリティ

アクセスポイント間的高速ローミング	◆ あり
クロスゲートウェイローミング	◆ あり
WISPrスマートクライアント	◆ あり
最適化されたキャプティブポータルでのモバイルデバイス認識	◆ あり
各アカウントで複数のデバイスをログイン	◆ あり
QRコードを使用した自動ログイン	◆ あり
デバイスのプラグアンドプレイ	◆ あり
再認証不要なオンデマンドのスマートログイン	◆ あり

### 管理機能

ワイヤレスLANにおいて、Edgecoreコントローラーはネットワーク管理者がオンライン接続しているユーザー数を確認したりネットワーク接続障害を解決する場合の中央管理ポイントとして機能します。Edgecoreコントローラーの管理コンソールは、シンプルで直感的に操作できるブラウザーベースのGUIで構成されます。このインターフェースから、ネットワーク管理者はトラフィック誘導のプロファイルを設定し、以前のネットワーク利用を追跡し、システムをバックアップし復旧させるなどの操作を行えます。

ユーザー管理の点でEdgecoreコントローラーが提供するメリットに、ユーザーの場所（サービスゾーン）とアクセス時に応じて異なるトラフィックプロファイルを施行する能力が挙げられます。例えば、勤務時に適用されるプロファイルと勤務時間外のプロファイルを分けることもできます。帯域幅の制限からルーティング方法の指定にいたるまで、ネットワーク管理者はWi-Fiユーザーを細かく管理できます。

アクセスポイントについては、Edgecoreコントローラーは検出とプロビジョニングを自動的にを行い、ネットワークの初期導入につきまとう面倒な繰返し作業を一掃できます。アクセスポイントの設定と監視を一括管理することで、メンテナンスを行うIT担当者の労力が大幅に削減されます。

システム管理	
ブラウザーベースの設定	◆ あり
管理者アカウント	◆ 複数の階層に分かれたアクセス権限 ◆ 各管理者が現在アクセス中のページを監視
システム時刻	◆ NTPとの同期 ◆ 手動設定
システムのバックアップと復旧	◆ あり
SNMP	◆ あり (v2c)
ネットワークユーティリティ	◆ あり (パケット取得機能を内蔵)
アクセスポイントの管理	
アクセスポイントの自動検出	◆ あり

アクセスポイントの自動プロビジョニング	◆ あり (テンプレートベース)
アクセスポイントのバックアップと復旧	◆ あり
アクセスポイントのファームウェアを一括してアップグレード	◆ あり
トンネル化アクセスポイントの管理	◆ あり (L2とL3アクセスポイント両方に対応)
アクセスポイントの負荷調整	◆ あり
アクセスポイントのファームウェアの自動アップグレード	◆ あり
アクセスポイントの定期バックアップの自動実行	◆ あり

ユーザーの管理	
ユーザーポリシーの割り当て	◆ 役割ベース ◆ 時刻と場所に応じた割り当て
帯域制限	◆ ユーザー毎 ◆ グループ毎 ◆ 帯域幅の調整
トラフィックの分類/リマーケティング	◆ あり (802.1p / DSCP)
ステートフルファイアウォール	◆ あり (各ルールに施行スケジュールを個別設定)
静的ルート割り当て	◆ あり
同時セッション数の制限	◆ あり
IPアドレスの再割り当て	◆ クライアントが認証後に別のIPアドレスを取得可能

### サービス

企業組織が主要ネットワークをワイヤレスネットワークへ移行する動きを強めており、DHCP、NAT、ルーティングなどの基本的なネットワークサービスを念頭に置くことが不可欠となっています。こうした機能の提供に加え、Edgecoreコントローラーは「サービスゾーン」のコンセプトも導入しています。これはコントローラーを実質的に複数の仮想コントローラーへ分割するもので、それぞれが管轄のネットワークサービス、ユーザーポリシー、認証設定を割り当てられます。

最後に、Edgecoreコントローラーは独自の付加価値を提供します。ホテル内で管理対象のWi-Fi提供の費用を劇的に下げられるMicros Opera PMSの直接統合などがその例です。

ネットワークサービス	
冗長性 (高可用性)	◆ なし
対応インターネットプロトコル	◆ IPv4 ◆ IPv6

DHCPサーバー/DHCPリレー	◆ あり
ネットワークアドレスの変換	◆ あり
内蔵HTTPプロキシサーバー	◆ あり
動的ルーティング	◆ あり
ローカルのDNS記録	◆ あり
ホテルのPMSを統合	◆ Innkey PMS ◆ Micros Opera PMS ◆ IDS Next
内蔵の課金と会計システム	◆ あり
課金単位のタイプ	◆ 時間ベース ◆ トラフィック量ベース

### レポート

ネットワーク活動のリアルタイム監視や以前のWi-Fiユーザーの利用状況追跡のいずれであれ、ネットワーク管理者は効率を上げ労力を下げる適切なツールを揃えなければなりません。Edgecoreコントローラーはログとレポートの豊富な機能を備えており、ネットワーク管理者はワイヤレスネットワークに関するどんな情報も簡単に検索できます。

内蔵のシステムダッシュボードを使用して現在のシステムステータスを素早く把握でき、ネットワークのトラフィックやシステムパフォーマンスがグラフィック形式で表示されます。また、オンラインのデバイス一覧とその詳細な統計を確認できるシンプルなインターフェースも提供されます。統計情報にはデバイスの役割、施行されたネットワークポリシー、転送済みのパケットなどが含まれます。

ネットワーク監視に加え、Edgecoreコントローラーはすべてのネットワーク稼働を詳細にログへ記録します。例えば、ユーザーHTTPウェブのログを使用してネットワーク管理者は誰が悪質なウェブサイトへアクセスしたかを追跡でき、DHCPリースログはIPアドレスを取得できないクライアントの問題解決に役立ちます。最後に、設定変更ログは管理者への設定がこれまで変更されたかを表示し、修正する必要がある構成エラーを発見できます。

### システムとネットワークのステータス

システムダッシュボード	◆ あり
グラフィック形式のシステムパフォーマンスのレポート	◆ あり
トラフィック量のレポート	◆ あり
システムプロセスのモニタリング	◆ あり
オンラインデバイスのモニタリング	◆ あり
アクティブセッションの一覧	◆ あり
SYSLOGの厳密性の調整	◆ あり
SMTP（メール）通知	◆ あり
同時に複数のメール通知を受信者へ設定	◆ あり
ネットワーク活動のログ	
システムログ（SYSLOG）	◆ あり

CAPWAPログ	◆ あり
変更ログの調整	◆ あり
RADIUSサーバーログ	◆ あり
ユーザーイベントログ	◆ あり
ユーザーHTTPウェブログ	◆ あり
ファイアウォールログ	◆ あり
DHCPサーバー/リースログ	◆ あり
PMSインターフェースログ	◆ あり
オンデマンド課金レポート	◆ あり
アクセスポイントステータスのメール通知	◆ あり
アクセスポイント管理のイベントログ	◆ あり
外部FTPへログを記録	◆ あり
ログとレポートの頻度調整	◆ あり

### 仕様

#### システム容量 \*1

管理対象アクセスポイント	◆ 最大50
ローカルアカウント	◆ 最大2,000
オンデマンドアカウント	◆ 最大2,000
同時接続ユーザー数	◆ 最大200

#### ハードウェア仕様

フォームファクタ	◆ デスクトップ
寸法（幅 x 奥行き x 高さ）	◆ 19.0 cm x 13.3 cm x 3.3 cm
重量	◆ 0.6 kg
電源	◆ DC入力：12V / 1A（電源アダプター付属）
インターフェース	◆ WAN：10/100/1000Base-Tイーサネット、Auto MDIX、RJ-45 x 1 ◆ LAN：10/100/1000Base-Tイーサネット、Auto MDIX、RJ-45 x 4 ◆ コンソール：RJ-45 x 1 ◆ USB：USB 3.0 x 1
LEDインジケータ	◆ 電源 ◆ ステータス
ボタン	◆ リセット
LCDディスプレイ	◆ なし
動作環境	◆ 動作温度：0 °C ~ 40 °C ◆ 動作湿度：5% ~ 95%（結露なし）

\*1：容量制限は設定パラメーターに応じて異なります